ジェンダー研究所
2017年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／理事・副学長　　**猪崎　弥生**

設立3年目を迎えた2017年度、ジェンダー研究所は、その前身の時代から培ってきた研究実績に安住することなく、果敢に新規事業に取り組みました。

ジェンダー研究所に所属する研究者らは、引き続き各々の研究プロジェクトに真摯に取り組み、研究成果を挙げており、2017年度も競争的外部資金をいくつも獲得するなど、高い評価をいただいております。加えて、先端的・刺激的なテーマでのセミナーやシンポジウムを多数企画し、国内外の研究者たち――新進気鋭の研究者から世界的に著名な研究者まで――を多数招聘し、研究交流を行いました。

また、今年も新たに海外の卓越した研究者を特別招聘教授としてお迎えし、ジェンダー研究所の研究力を高めることができました。本学を舞台に、グローバルな研究者ネットワークが着実に形成されつつあります。

2017年4月には、ノルウェー大使館の協力を得て、ノルウェー科学技術大学（NTNU）のジェンダー研究センターの研究者を招いてのシンポジウムが開催されました。これをきっかけに、新しい国際共同研究プロジェクトについての協議がすすめられると同時に、本学との大学間協定の締結が実現しました。この新しいNTNUとの関係が、長期的な実り多いものになることが期待されます。

さらに今年は、ジェンダー研究所が刊行している学術誌『ジェンダー研究』を一新し、ジェンダーに関する最新の研究成果を世界に向けて発信し、ジェンダー研究の発展に寄与することを目指す、全く新たな学術誌として生まれ変わる準備が進められています。

ジェンダー研究所は、2017年度も、その研究教育事業を推進することで、グローバルな女性リーダーの育成という、本学のミッションを確かな歩みで遂行し、社会的要請に応えるべく、努めております。

来年度には中間評価も予定されており、これまでの成果に甘んじることなく気を引き締めて、引き続き事業に取り組む所存です。ご支援、ご協力くださいました皆様に、心から御礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

ジェンダー研究所2017年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長　　石井クンツ　昌子

研究所設立3年目である2017（平成29）年度は、一昨年度、昨年度にも増して、所長以下、専任教員、研究員、研究系スタッフ、事務系スタッフが協力して研究プロジェクト推進や国際シンポジウム等開催に取り組みました。ジェンダー研究所は、安定した組織運営を基盤に、多くの事業成果を挙げているだけではなく、2017（平成29）年度には、いくつかの新規事業を開始しています。

ジェンダー研究センター時代からタイトルを引き継ぎ刊行している『ジェンダー研究』は、学内外を問わず優れた論文を収録する学術雑誌への転換を決定しました。2017年度中は、そのための新しい編集委員会の体制作りと各種規定作成、投稿論文募集といった準備作業が進められました。

新しい国際的連携関係の構築としては、ノルウェー科学技術大学（NTNU）のジェンダー研究センターとの交流が挙げられます。2016年度中にノルウェー大使館の仲介を得て交流が開始し、2017年4月には、ノルウェーから研究者を招いてシンポジウムを開催しました。9月のNTNU訪問では、共同プロジェクト実施についての協議が持たれ、国際共同研究のための助成金の申請が進められる運びとなりました。

もうひとつ、ジェンダー研究所では、創設以来の事業記録を電子化して整理する作業が開始されました。歴史を振り返る作業は、組織の足場固めにもつながります。この3年間の国際的教育研究拠点形成の事業を進める中で再認識したことのひとつは、「お茶の水女子大学のジェンダー研究」のブランド力です。国内外での知名度の源泉は、四十有余年継続され、着実に成果を挙げてきたジェンダー研究所の研究活動です。その歴史の記録を財産として保存し活かしていくことも、拠点形成のための重要な事業と言えるでしょう。

グローバルリーダーシップ研究所との協働活動実績も、着実に積み重ねられています。2018年度開催予定のグローバル女性リーダー育成研究機構主催の国際シンポジウムの準備活動もそのひとつですが、事業成果として報告書に明記されにくい、日々の研究所運営における教員間、スタッフ間の交流は、両研究所の組織力を高める要素となっています。

研究所事業の核である研究プロジェクトや、特別招聘教授プロジェクト、国際シンポジウム、セミナー開催、教育プロジェクトにつきましても、年間を通して活発な事業活動が展開されたことは、本報告書からご理解いただけることと思います。研究所事業の充実は、所員の努力のみによってではなく、学内そして学外の各方面からの協力を得て実現されています。ここに、心からの感謝の意を表します。

また、年度末には、研究所活動の核となる役割を担っていらした足立眞理子教授が退官されました。足立教授は、日本におけるフェミニスト経済学の第一人者であり、ジェンダー研究センター時代から今日にいたるまで、当研究所の研究実績において大きな成果を挙げられました。2003（平成15）年度からは21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」事業推進担当者、2007（平成19）～2014（平成26）年度はジェンダー研究センター長、加えて、2016年度まで『ジェンダー研究』編集長と、本研究所における重要な役職をお務めになりました。この場を借りて、長年にわたるご貢献に感謝申し上げます。